



『松井秀喜』

校長 田代 雅規

「ゴジラ」の愛称でも知られている松井秀喜さんのお話をします。日本でもアメリカの大リーグでも素晴らしい成績を残して、2013年に国民栄誉賞を受賞しました。松井さんの礼儀正しきや謙虚さ、人としての思いやりなど、彼の人間性は日本でもアメリカでも有名です。今日は、松井さんの“人としてのすばらしさ”を紹介します。これからするお話は、作家の伊集院 静さんが書いた『松井秀喜の美しい生き方』の本の中のお話です。伊集院 静さんは直木賞や柴田錬三郎賞、吉川英治文学賞など数々の栄誉ある賞を受賞しています。また、近藤 真彦さんの「ギンギラギンにさりげなく」や「愚か者」などの作詞も手掛けています。

ある日、伊集院 静さんと松井秀喜さんの対談が出版社の企画で組まれました。この日がお互いの最初の出会った日だったそうです。二人の対談は、最初は当たりさわりのない普通の会話から始まります。松井さんの誠実な受け答えに、伊集院さんはじめ周囲の出版社スタッフも、すっかり彼に好感をいただいたと言います。その後もいろんなやりとりが著書に記されています。やりとりの中で、伊集院さんが「君の周囲の人から聞いた話だけど、君は人の悪口を一度も口にしたことがないそうだね。」と質問しました。松井さんは、「野球選手になろうと決めてからは一度もありません。」と答えました。まさか、という気持もあり、確かめたい気持もあり、伊集院さんは再度同じ「一度も人前で悪口を言ったことがないの？」と聞き直しました。松井さんは、「はい、ありません。」と再び答えました。伊集院さんが「どうしてそうしているの？」と尋ねると、松井さんは「父と約束したからです。中学2年生のとき家で夕食をとっているときに僕が、友だちの悪口を言ったのです。すると、父が夕食を食べるのを中止して僕に言ったのです。『人の悪口を言うような下品なことをするものじゃない。今、ここで二度と人の悪口を言わないと約束しなさい。』と父に家族の前で約束させられました。それ以来、僕は人の悪口は言っていない。」と答えました。

父親が息子の悪い所を叱り、息子が素直に謝った。どこにでもある一般家庭の光景ではあります。同じようなことは、当然ながら私にもあります。松井さん親子の場合、どこがどう普通の家庭と違っていたのでしょうか。この日を境に、一切人の悪口を言わない松井秀喜という人格が形成されたと言います。本では、この後、伊集院さんからこんな質問もあります。「ところで松井君は、それでも悪口を言いたいときはないのですか。例えば、君のバッティングフォームについてけなされた時とか・・・」、松井さんは、その質問に「言いたい時は・・・」、そこでしばらく黙った後、「山ほどあります。でも、言ったことはありません。」と言って、ニヤリと笑ったそうです。

松井さんは、中学生の時から20年以上の長い期間にわたって、人の悪口を言っていないこととなります。「友達に嫌なことを言ってしまった。」「いないところでその人の悪口を言った。」「一緒に遊ばないように友達に言ってしまった。」こんなことはありませんか。松井さんが「他人の悪口を言わない。」ことを続けていることはとても立派なことだと思います。人は、自分が思う通りにいかなかったり、苦しい立場になったりする時に、愚痴を言ったり、他人のせいにしてしがちです。そして、それは、他人への悪口として、表れることも多くあります。でも、悪口を言っても、嫌なことが解決されるものではなく、やがてその相手の耳に届き、状況が悪い方向に進むことにもなります。緑野中の生徒には、松井さんのように人の悪口を言わない人になって欲しいです。

11

月

12

月

の

行

事

中学生意見発表会 12月2日(土) 中野サンプラザ



「情報～中学生が情報と安全に付き合うには～」

高野 王羅君 (2年)

僕たちの周りには、様々な情報が満ち溢れています。その中には、僕たち中学生に深く関わってくるものもたくさんあります。今では、中学生の5人中4人が使用しているというスマートフォンのアプリ「ライン」や「ツイッター」は、中学生の定番アプリとして、知らない人はいないというほど、有名になっています。それらは、僕たちにとってすごく使いやすい、便利なものですが、その裏には様々な危険と問題点が潜んでいます。



問題点の一つに、文字だけの会話ではトラブルが起きてしまうということがあります。ラインは、スマホに文字を入力するだけで、気軽に相手と連絡が取りあえます。しかし、それは相手の表情、口調が分からない状態で話をしているということなので、自然に言葉が厳しくなったり、つい悪口を言ってしまうことがあります。それらがエスカレートしてしまうと、喧嘩やいじめにつながり、取り返しのつかない事態を招いてしまいます。では、どうすればこの問題は解決するのでしょうか。

そこで僕は、こう考えました。「一人一人が相手の感情、自分の立場を理解して、ラインを利用すれば、このトラブルは無くなるのではないか。」ラインを使わないというのは無理な話です。ラインを使っていく上で、相手の感情と自分の立場を明確にすれば、悪口を言うことも、いじめになることも無くなっていくのです。また、大切な要件は、実際にあって面と向かって話すということも、ラインを安全に使う上で、大切な事だと思えます。

情報と付き合う上での問題点は、もう一つあります。それは、一度載せた投稿、コメントはもう二度と消せないという事です。旅行の思い出や友人とのパーティーなどをツイッター、タイムラインに掲載すれば、それは消えない思い出として残り続けます。これだけ聞けば、メリットになりますが、扱い方を間違えると、それは大きなデメリットになります。正しくない扱い方について、僕の考え方をまとめてみると、次の二つが考えられます。

一つ目の「正しくない使い方」は「虚偽の情報を掲載すること」です。ツイッターでツイートした内容は、友達にはもちろん、世界中の人達が自由に閲覧することが出来ます。そこで、虚偽の情報を載せてしまうと、友達からの信頼を無くしてしまいます。それに加えてネットに載せた情報は、完全に削除することができないので、一度虚偽の情報を載せてしまうと、もうそれを無かったことには出来ないということです。

これを防ぐためには、まず自分が持っている情報が正しいかどうかを明確にしてからツイートするというのが大切です。ウィキペディアなど、インターネットの情報サイトで仕入れた情報なら、他のサイトで調べることが大切ですし、友達から聞いた情報なら、それが本当かどうかしっかりと確認する必要があります。

二つ目は、「他人を批判するような内容を載せること」です。これは周りの人に多大な迷惑をかけます。友達の悪口はその友達を傷つけ「歌手の〇〇、歌下手だよね。」というような内容のものを掲載してしまうと、その人のファン全員がものすごく不快な思いをしてしまいます。

これを防ぐためには、まず自分が掲載しようとしている内容を客観的に見なければなりません。そして、その情報が誰にどのような印象を与えるものかを考え、誰も不快にならないのを確認してから掲載する。これを掲載する前に行えば、このトラブルは無くなっていくと思えます。

これまで二つの問題を紹介してきました。それらは、僕たちが安全な正しい使い方をすれば、改善されていくものばかりでした。つまり、僕達自身が、情報と安全に付き合っていくにはどうしたら良いのかを考え、それを念頭に置いて、情報を扱っていくことが必要不可欠です。情報の扱い方を考えていくことで、ラインやツイッターでのトラブルは無くなり、僕達中学生と情報が安全に付き合っていく

環境がつくられていくのだと思います。

この中にも、スマホでラインやツイッターを利用している方は、多くいると思います。この機会に「情報の正しい扱い方」をもう一度、確かめてみてはいかがでしょうか。僕は、それによって中学生の情報に関わるトラブルがなくなることを心から願っています。

平成29年度 中学生の税についての作文



東京都税理士会中野支部支部長賞

【税に支えられている毎日】

遠藤 桃 さん(3年)

私は、この税のことを作文に書くために全然知らなかったのので、税のことについて調べてみました。すると、たくさんの税金に支えられて、私は生活していることにとても驚きました。

毎日中学校に通えることも、消防士さんや警察官の方がいることで、安心して生活できていることも、いざというときに病院でお薬をもらえることも、税金のお蔭なのだと思いました。

特に驚いたことは、二つあります。一つ目は、無料で病院にいけてお薬をもらうことができることです。私は、アレルギーがあったり、喘息もちだったり、鼻血が出やすかったりがあったりして病院で毎月のように診察をして、お薬をもらっています。

ある時、珍しくお母さんの診察だったときに、お薬をもらわずに診察だけで結構なお金がかかっていました。そこで私は、今までのお薬代や診察代は、たくさんの税金で、支払われていたのだなと思いました。あと半年しか無料でもらうことができませんが、そのような気持ちではなく、お母さんやお父さんや日本国民の人たちがたくさんの税金を納めてくださっていることに感謝して、病院を使っていきたいと思いました。

二つ目は、中学校に通うためにかかる費用についてです。私は、中学校に通えることができるのは、税金が支払われているからということは知っていたけど、どれくらいの費用がかかっているのかは知りませんでした。なんと、中学生一人にかかる3年間の費用は、335万4000円でした。小学校6年間を合わせると901万8000円かかっていることが分かりました。

一人にそんなにかかっていることは驚いたし、それを税金で払ってもらっていることは、当たり前だと思ってはいけなかったと思います。

また、驚いたのは、高校の費用です。もちろん、都立高校は税金から費用が支払われていて高校に通うことができるということは知っていました。でも、私立高校にも国から税金で補助金がでていることは、初めて知りました。このようなことから、私は、税金とは、きつてもきれない関係なのだなと思いました。毎日、安心して安全に生活することができて、学校に通って勉強できることは、本当に幸せなことだということが改めて知ることができました。大人になって働くことになって私も税金を納めるようになると思います。そのときは、ちゃんと納めて毎日の生活を守っていきたいと思いました。



オリンピック・パラリンピックアワード校 講演会

2つの講演会には、保護者や地域の多くの方にも参加いただきました。ありがとうございました。



12月11日(月)に、リオデジャネイロ・オリンピックの水泳女子200Mバタフライで、ロンドン・オリンピックと2大会連続の銅メダルを見事に獲得した星 奈津美選手が講演に来てくださいました。星選手は、高校生のときにバセドウ病となり、病気と闘いながらオリンピックを目指して、素晴らしい成績を残しました。

星選手からは、

- 悔しい経験を前向きに捉える気持
- 努力できる環境があることへの感謝の気持
- 夢は自分一人のものではない

ことの3点についてお話をいただきました。講演会終了後には、緑野中の生徒全員にロンドンとリオデジャネイロ・オリンピックのメダルを触らせていただきました。



リオデジャネイロ オリンピック銅メダリスト 星 奈津美選手が緑野中学校に来られました！



12月18日(月)に元サッカー日本代表のラモス瑠偉選手の講演会を実施しました。ラモス選手は、小さいときに父親が亡くなり、母親一人で兄弟も多く、家族を幸せにするためにサッカー選手になって、お金を稼ぎたいと思っていたこと、そのために、日本に来て、苦しい生活のときもあったけれど、一生懸命練習して、日本代表にもなり、ブラジルの家族のために仕送りをして、最後は家をプレゼントしたこと。そして、ラモス選手からは、とにかく、親を大切にすること、夢をもって、それに向かって努力することを教えていただきました。

最初は、30分の講演を予定していましたが、講演後には生徒からの楽しい質問にも丁寧に答えていただき、1時間30分以上の講演会となりました。



<生徒の感想より>

- 僕は、ある程度事前学習をしていたが、それでも知ることができなかったラモスさんの子供時代を知ることができた。母のために頑張っているラモスさんの話を聞いてとても尊敬した。僕も何一つ文句を言わず頑張っている父と母のために将来親孝行をしようと強く決心できた。全然知らなかったラモスさんの生き方を聞いて、僕も夢をあきらめずにその夢に向かってこれからの人生を歩んでいきたいと思った。貴重な体験をありがとうございました。
- お忙しい中、緑野中学校で講演をしていただき、ありがとうございました。私は、ラモスさんの講演会の前夜に父と喧嘩して仲直りをしていませんでした。ラモスさんの講演を聞いて、父のしっかりと目を見て謝ることができました。人の目を見て謝るとなんだか笑顔になれました。家族は、私にたくさんの事を学ばせてくれて、頑張っている仕事をしてれています。その感謝の気持を普段から言葉にしていこうと思いました。貴重な話をありがとうございました。



元サッカー日本代表 ラモス瑠偉選手が緑野中学校に来られました！

